

2017年10月8日

『不安な個人・立ちすくむ国家』に寄せて

ディレクトフォース 技術部会 『DF 産業懇話会』有志

討議メンバーについて

ディレクトフォース (www.directforce.org) は企業や大学などの OB が、一線を退いた後に社会貢献としてボランティア活動などを行っている団体。

今回、経産省の当該レポートについて 25 名位のメンバーで討議した。

その討議の概要についてまとめてみた。

(会員の属性は企業などでそれなりの経験や苦労を重ねてきて、今は高齢者ながらそれなりに安定した老後で、今後の日本や若者の行く末を案じながら活動しているメンバー達)

意見の構成

1. 全体評価について
2. 今後の議論に対する期待
3. 主要討議項目についての論点
 - (1) 個人の不安の要因について
 - (2) シルバー民主主義
 - (3) 教育問題
4. 付属： 『不安な個人・立ちすくむ国家』 レポートページごとのコメント

1. 全体評価について

官僚側からこのようなレポートが出てきたことは評価したい。若手官僚頑張れ！

時代認識、不安の背景等の解析について、指摘の問題点は概ね共有できる。

(しかし、多くの分析は一般的に言われていることをまとめた認識、特に意見無し) 表題の不安と立ちすくみを前面に出したことは分かりやすい。

しかし、シルバーの立場から見て、驚くような掘り下げや提言は見られなかった。

以上のような理解をした上で、コメントをまとめてみた。

- ー 日本が国家として極めて厳しい状態にあることの危機感がもっと強くあるべき
- ー 日本の立ち位置を、日本人の目で見えて問題提起しているが、もっとグローバルの視

点からの評価も含めて考察し、日本独自の背景をしっかりと浮き彫りにすべき。

世界は全体に騒々しい、日本も厳しい状況なのに静かで鈍い世情は何故か。

老若世代間の利害対立、富裕・貧困層の対立、見えない差別(女性活動等)

異質なもの(文化・宗教・主義等)に対する、感受性と寛容性が低い。

- － 解析と提言が表面的ではないか。マスコミや評論家の一般論で議論していないか、現場観が薄い、サイレントマジョリティーを考慮した真の声を掘り下げるべき、具体的に悩みを持つ人の悲痛な声か、不安不満の漠然とした声なのか。
- － それぞれの課題に、若手らしい突っ込みが欲しかった。

2. 今後の議論に対する期待

- － このような問題提起と議論を他の省庁も巻き込んで、広げて続けてほしい。
- － このレポートにはあえて処方箋がないと認識しているが、焦点を絞って実行処方箋をしっかりと議論してもらいたい。
- － 今後 少子高齢化、人口減少・過疎化、IT 化社会、等の大きな課題にしっかりしたビジョンを持った政策付けを期待。
現状の課題が多すぎ、それぞれに対応しているようだが、どこに軸足を置いているのか分かりにくい。重点化と強力な推進期待
必ず訪れる過疎化・IT 化社会を念頭に置いた、都市作りと地方の生活基盤設計（分散化の無駄をなくす）
- － 高齢者＝弱者 ではなく 高齢者集団を生かす方策を考えるべき
- － 高齢者を一括りにするのではなく、年齢層、健康状態、経済状態で分けて議論すべき。
- － 一方で、弱者を生まない支援を考えるべき 母子家庭ばかりではなく、引きこもり、ワーキングプア、パラサイト、精神的鬱者等
- － 増やすことばかりでなく、削る政策 行政はゼロベースで民間にできることは民営化するくらいの覚悟を持つべき。
- － 規制・制度は緩やかにして、自己責任を明確にした制度設計
- － 大災害や突発的国家危機に対する、最小限の備えを国民一人一人に周知 考えさせること。 危機意識が明確になり、不安に立ち向かう姿勢を生ませるべき。
- － 政策が成長を前提としたことに偏っていないか。国民は成長を求めているのだろうか。財政を成長でカバーするのは無理ではないか。不便、我慢を求める政策も必要。
- － 官も海外の民間企業と出入り（JETRO 出向等日本の出先ではなく）して、グローバルの競争下の経験をできるような制度を期待。
- － 揚げ足取り、票期待ばかりの政治にしっかりと対抗できるよう健闘を期待します。

3. 主要討議項目について論点

(1) 個人の不安について

- － 不安の本質が、国家・社会の問題か（日本国家）、個人の問題（生活）なのか 輻輳しており、整理して議論すべきではないか。
- － 不安を一般化しているが、マジョリティーの不安なのか、声の大きい一部の甘えな

のか掘り下げが必要。

- － 多くの不安とされた項目は、自分が豊かな世界にあるべきという前提の不満ではないか。日本はグローバルに見れば恵まれているのに不安が多い。他人との比較で不満を叫んでいるのではないか。不満解消策を政府が与えてくれると甘えている。
- － マスコミや評論家が不安を煽っているのではないか。
現場をよく見て不安の本質を議論すべき。
- － エネルギー問題・環境問題・国際情勢問題等の不安には、国民全体で正しい理解を共有し、不安ではなく危機感として認識させる努力が必要。
- － 不安の源泉は、頼るべき組織や仲間が失われているからではないか
大家族の崩壊、核家族化その一方で、地域、宗教、趣味等受け皿のミスマッチ

(2) シルバー民主主義

- － 結果として若者に厳しい社会になっているが、これは政治が生み出したことで、シルバーが意図して進めたわけではない。
- － 政治のポピュリズムがシルバー層に付度しているのではないか。
このままで、多くのシルバー層は逃げ切りと思っている節もある、若者はそれを追求し社会改革に声を大きくすべき。
- － 競争の勝者が敗者に手を差し伸べる福祉が必要 勝者に自覚を与えること
- － 日本全体に世代交代が遅れているのは事実（組織・仕組みも含め）
- － 社会保障・医療介護・生活保護・終末選択等
サービスを年齢や収入で限度を設ける政策と、個人の責任での選択に自由を与える

(3) 教育問題

- － 大学教育の無償化で、役に立たない学士、博士の量産はもつてのほか 反対。
- － 貧困層への教育支援や奨学金の充実が必要
- － レベルの高い学生を育てる教育を強化する一方で、技能者育成の強化
- － 多様な個人の才能やキャリアーを評価できる教育
- － 不安や不満は教育でかなり解消できる
若者にしっかりした倫理観・国家意識を持たせること
徳育・奉仕の精神、共同体としての国家 行き過ぎた個人主義・エゴを排除する教育
公平・公正の判断力、適正な批判精神、自己責任の大切さ
困難に不満を言う国民ではなく、困難に立ち向かう若者を育てる
→ これらがしっかり教育され認識できれば、不安のかなりは解消できるはず
- － アフリカの最貧国より幸福感のない国家、マスコミや政府のミスリード
→ 残念ながらこれらは、経産省の管轄ではないかもしれないが、是非文科省と議

論してもらいたい。

⇒ その他のコメントは、別紙レポートのページごとに列記